

第1回 交通まちづくり懇談会 議事要旨

日 時：平成 16 年 10 月 25 日（月） 14：00～16：00

場 所：宇都宮市総合福祉センター 10 階 大会議室

出席者：森本、奥備、石川、西村、田上、関、広田、栗田、加藤、阿久井、小林、藤平(元)、
小野、阿島、稲葉、梅林、小針、藤平(昌)、松本

[次第]

開会の挨拶（事務局）

参加者紹介（事務局）

座長挨拶（座長）

議事

- ・懇談会の公開について（説明：事務局）
 - ・交通まちづくり懇談会について（説明：事務局）
 - ・交通まちづくりに関する現状と課題について（説明：座長）
次回の予定について（事務局）
- 閉会の挨拶（事務局）



懇談会の様子

< 懇談会の公開について >

事務局：原則的に懇談会は公開で考えている。議事の要約版をつくり、無記名で市のホームページ等に公開していきたい。なお、委員に内容を諮った上で公開することとする。

参加者： 異議無し。

< 交通まちづくり懇談会について > ...事務局より説明

座 長： 交通まちづくり懇談会の目的、役割と今後の進め方について事務局より説明が

あったが、これについて疑問点、質問等はないか。

参加者：内容的にまだわからないので、もう少し進めてもらわないと意見が出せない。

<交通まちづくりに関する現状と課題について>...座長より説明

座長：自由なディスカッションなので、説明した内容に関することでも、自分で思っていることを述べていただいても良い。自由に発言していただきたい。

参加者：知事選挙が議論される中で、LRTが一人歩きしているように思う。解決策が他にあれば、必ずしもLRTである必要はないと思う。ただ、福祉面、高齢化の面等のいろいろな問題に絡んでくる問題なので、最終的に結果論としてLRTが解決の一助となるのかな、と考えている。

また、東京と宇都宮の街並みを比べてみると、宇都宮は寂しい。中心市街地活性化や観光都市化等、「諸問題の解決」という目線で公共交通のあり方を議論していきたい。

参加者：インターネットを使った栃木県内の交通情報の公開をボランティアで行っている。その中で特に、地元に着いていない人、例えば、観光客、通勤者、進学者から、宇都宮市の交通に関して「使い勝手が悪い」とか「わからない」という意見が多く、このままではいけないと考えている。これに対して、ハード面の整備を進めることももちろん大事だが、地域の住民が、もう少し俯瞰的に地域の交通を見られるようなシビルマインドの形成というのが必要なのではないかと思う。

参加者：まちづくりに関して、宇都宮は元気がない。公共交通は移動時にコミュニケーションをもてる交通なので、公共交通に乗れば、そこでふれあい、出会いがあるということがこれからの高齢化の進む社会に必要と思う。

また、公共交通がないのでやむを得ず車を運転しなければならない人も、ある意味で「交通弱者」ではないかと考えている。そういう人が利用できる公共交通の充実が必要と思う。

また、渋滞箇所が問題になっているが、その箇所は人口密度が高いということになる。今後の人口減少の対策として、逆にこの渋滞箇所の人口密度の高さをプラスに換えられるのが公共交通であり、今のところLRTであると考えている。

参加者：陽東地区の大型店舗立地で新たな渋滞が発生しているが、なぜ人が集まるのかを考えてみると、いろいろな目新しい店があり一日いても飽きないというのが一番の理由であると思う。逆に駅西の中心市街地に人がいなくなっている理由は、シャッター通りになりかけているため、店舗が減っているために行きたいと感じなくなって、だんだん遠ざかってしまっている。また、学生の立場で言うと、夜遅くまで出歩きたいというのがあるが、オリオン通りは夜が早く雰囲気が悪くなるので行きづらい。まちの機能を考えていかないとLRTを通しただけではこれらの問題は解決しないので、まちの機能の面からも考えていく必要があると思う。

参加者：皆の意見がわからないではないが、あくまでも「宇都宮を中心としたの空洞化をどうするか」という話に聞こえてしまう。市貝の住民としては、「郊外の交通」、「郊外から都心への交通」が問題となる。郊外からの交通の渋滞を解消するためにはLRT、トロリーバス等を通すことが考えられるが宇都宮に出るには鬼怒川

をどうしても渡らなければならず、結果的には橋をつくらなければならない。交通問題については、どこに目線を置くかということがあり、郊外から都心への交通の目線としては、「橋をつくる」というのが一番の条件で、その後何をそこに通らせるかということになると思う。もう一つの目線としては、宇都宮の空洞化を無くすだけでなく、周辺の田舎を含めた田園都市づくりというようなものを考えることが必要で、そうすればバランスのとれた交通量が確保できると考えている。

参加者：宇都宮の中だけでなく、もっと長期的に、今回の懇談会に参加されている方々の地域も含めて「体系的な交通がどうあるべきか」を考えていくことが必要である。宇都宮が良くなると同時に鹿沼等の周辺地域とのパイプをどうしていくか、ということ踏まえた交通の計画を盛り込んでいきたい。

参加者：高根沢町では、LRTの必要性をそれほど強く感じていない。ただ、LRTによって高齢者が自由に宇都宮市内に行き来できるというのであれば、今後のあるべき姿について考えていくことに対して反対するわけではない。宇都宮中心部と周辺の市町ではまだかなりの温度差があると思う。

参加者：市貝町民は、LRTにはまだ殆ど関心がないというのが現状である。個人的な話になるが、自動車販売やバス運行をしている立場としては、鉄道を引かれると困る。しかし将来的な展望として、宇都宮の空洞化、宇都宮から地方への人口流出を考えると、LRTも必要かなと思う。軌道が引かれることによる車の通行の阻害や地域のための設置駅数増加による速度の低下がどうしても先に気になってしまうが、地方発展のため、宇都宮と地方のパイプ役となる事業としては賛成したい。

座長：ドイツではLRTがずいぶん導入されているが、車は結構売れているそうである。

参加者：環境汚染の視点を忘れている。建設費、利用料金が高いと言われるが、長い目で見て地球温暖化への貢献等を考えると、公共の乗り物であればそういうことは考えなくてもよいのではないかと思う。

現在、高根沢町は宇都宮市への通過地点となってしまうが、逆に考えて、宇都宮市から流れてきてもらうという発想で、LRTには賛成しようと思う。

参加者：茂木でもまだLRTについては盛り上がりも議論もない。最も心配なのは軌道を引いて車線が減ると渋滞が悪化するのではないかということである。先ほど先生からLRT整備時の渋滞について説明があったが、一般の方にはもっとわかりやすくアピールしないとなかなか理解してもらえないと思う。また、交通の問題だけでなく、関係するバス事業者や商業団体からの意見等も交えながらこの会を進めていった方がよいのではないかと思う。

座長：もっともっとPRに努めないといけないと感じている。

参加者：茂木町としてLRTを考える時、「宇都宮から茂木に移動するための手段」という位置づけで考えている。現況では、買物というと笠間と常陸大宮に行き、東京への上京は常磐自動車道を利用するというように、交通についてはどちらかといえば茨城県の方に向いているが、LRTができれば、宇都宮で東北新幹線から乗り換えてもらって茂木に来てもらうということになると思う。LRTにより、観光や首都圏との交流を図るというイメージである。そういう観点からも今回考え

ていただきたいと思う。

参加者： 鹿沼市山村部では、少子高齢化が進展しており、小中学校の生徒減少を初めとする若者の人口減少と高齢者の増加が問題となっている。高齢者は車の運転が大変なので、公共交通が山間部まで発達してくれば通院や買物の交通の便が良くなる。高齢者の移動手段として、鹿沼では「リーバス」のサービスがあるが、この会でいろいろな話を聞いて勉強していきたい。

参加者： 現在は、LRTそのものと真岡市の産業との直接的な関わりを考えても思いつかない。これまでいろいろ意見を聞いてきたが、今はまだ自分の意見が集約できない。今後4回のうちにいい意見を出したい。

参加者： 芳賀町の現状として、郊外から中心部に人が流れてこない、ということがある。また、清原・芳賀の2つの大きな工業団地があり、宇都宮との交通渋滞がまちづくりの障害となっていると考えている。今後の交通のあり方についてこの懇談会の中で提言できればよいと思っている。

参加者： 今日の参加者をみると、宇都宮市を中心とした東西市町村の方が集まっているので、現在公共交通手段がない東西の交通をどのようにしていくのかということの議論になると思う。東西市町村をつなぐ交通と、宇都宮と各市町村の中心部の過疎化を含めて、交通まちづくりについて十分に論議していきたい。

参加者： LRTを中心とした交通の議論となると、「宇都宮の中心部」という話に偏りがちだが、個人的に広域圏についても話をしていきたいと考えていたので、こういう機会はありがたい。将来的な東西軸の交通を考える場合には、パークアンドライドやトランジットセンターと呼ばれるシステムを念頭に置いた計画が必要と考えている。郊外と中心部の間にこのような拠点をつくることによって、車と公共交通との併用ということができると思う。先ほどそれぞれの自治体の方々がいろいろと課題を出されていたが、その幾つかは、この計画を念頭に置くことによって解決の方向に進むのではないかと思う。

座長： いろいろと意見が出されたが、宇都宮市として何か意見があるか。

事務局： 今の段階では、LRTに賛成、反対の議論ではなく、まず、県央地域の交通ネットワークはどうあるべきか、その中で新交通というものがどう活かせるのか、LRTを通すことでどのようなまちづくりができるのか、という議論をしていただきたいと思う。宇都宮駅と周辺地域が軌道系で接続され、定時性、速達性が確保できれば、それぞれのまちづくりにとっても有益だろうということでこの会に参加していただいております。宇都宮の中心部にすべて持ってこようというのではない。

座長： 今回いただいた意見より、「中心市街地の衰退に対して、まちづくりの話の中で交通を考えていかなければならないこと」、「宇都宮にすべて集めるのではなくて、周辺地域の中心市街地との連携についてどのようにしていくか」について議論していければよいと思っている。

1回目ということで多様な意見をいただいたが、これを踏まえて2回目以降の議論へ展開できれば、と考えている。

事務局： 次回の開催は11月の下旬頃で考えている。近づいたらまた連絡する。

以上